

1. 理想のまちの姿（要旨）に共感した理由

【令和3年度市政モニター提言書】

「水戸市民未来共創アンケート①」での質問

問：以下の提言の中で、あなたが共感できたものと、その理由は何ですか？

1. 「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち
2. 「子育て世代が多く居住する、活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち
3. 水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち
4. 「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち
5. 世代やバックグラウンドの関係なく、多様な人々が安心して交流できるまち
6. 必要な人に必要な行政サービスが届くまち
7. 「安心して子供を産み、育てられる環境」があるまち
8. 強い経済力のあるまち
9. 首都方面に通勤・通学できる水戸市
10. 新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち
11. 移住者同士の交流があるまち
12. 「芸術文化活動が盛んで、文化的な多様さが保証されている環境」があるまち

理想のまちの姿（要旨）

【1】「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち

- ・理想とする水戸市では、広範な市民層が自ら学びの場を運営し、主体的に水戸の歴史・文化を学ぶ環境が整備されている。これにより、多くの市民が「水戸人」としてのアイデンティティやシビックプライドを持っている。その際には、水戸の先人と現代の自己との連続性を体感するため、過去の忠実な復元がある程度重視されている。また、本間玄調や小宮山楓軒といった、民衆の福利厚生に尽力した水戸の先人達の記憶が、地域で誇ることのできる歴史物語として、広く共有されている。
- ・上記の学びにより、弘道館や水戸城や偕楽園といった文化遺産が多くの市民にとって、「誇るべき我々の遺産」として認識されている。歴史や文化遺産への誇りと帰属意識が醸成されることにより、地域の未来を自ら背負おうとする地域住民が育ち、そうした地域住民による自治活動・公益活動が活発に行われている。
- ・歴史を核として、「水戸人」としてのアイデンティティ意識を深めることは、移住・定住・Uターン人口の増加にも将来的に大きく関わってくる。

○リアル弘道館

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/409129/>

○【1】に共感した理由

- ・11/19 の教育遺産世界遺産登録推進協議会国際シンポジウムをオンライン参加させていただきました。
曾祖父が三の丸小学校と五軒小学校の校長職をし、また祖先が弘道館に携わった事から興味深く拝聴いたしました。感想と致しましては世界遺産登録迄にはまだまだ時間が掛かりそうに思いました。今時の若者のみならず現代社会で生活している水戸市民がどれだけ弘道館や偕楽園に歴史的な興味があり守りたいのか、或いは逆に恩恵を感じる事が出来ているのかいささか疑問です。水戸市民にとってもっとシンボリックなイメージを持てる様な周知が必要と思いました。
- ・「水戸の歴史に市民が親しみ、主体的に学べる環境」があるまち
講道館・水戸城・偕楽園等文化遺産は、他県の方々にも誇れる。
水戸の歴史・文化を学び、誇りをもつこと。
- ・大手門や弘道館など歴史的建造物を実際に見ることで興味が湧き学べる。
- ・地域の未来を自ら背負おうとする地域住民が育ち、そうした地域住民による自治活動・公益活動が活発に行われている。
- ・アイデンティティを持つことはとても大事です。
単なる首都の近郊の県庁所在地、ではなく、江戸あるいはそれ以前からの日本における水戸の位置づけ、また、水戸学が現在の近代日本を拓く礎であることを市民に誇りに思ってもらうことは、将来一時的に水戸を離れても故郷に戻りたい、と思ってもらえる大きな要因と考えます。（私自身がそうであるように）
- ・他者との交流や生活の役に立つ情報に困らず、移住前の生活と同等以上のクオリティを保てるため、水戸市の暮らしに対し明るいイメージを持てるまち。



理想のまちの姿（要旨）

【2】「子育て世代が多く居住する、活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち

- ・自家用車がなくても生活に必要な施設にアクセスできる高い利便性があり、また、子どもと楽しく歩くことができるため、子育て世代（又は世帯）に居住場所として選ばれ長期的に活力がある中心市街地（水戸駅周辺）が理想の姿である。
- ・現状では中心市街地に居住し、自家用車を所有することについて、金銭的な負担はもちろん、敷地不足のために遠方での駐車場確保や機械式駐車場の利用など、物理的にも負担が大きい。
- ・水戸駅周辺は子連れで楽しめる施設や歩いて楽しい街並みがあるため、充実した生活が送れる可能性がある。
- ・提言を実施することで中心市街地への移住・定住が促進されると考える。

○【2】に共感した理由

- ・やはり若い親と子供が住みやすい街を作り、色々なイベントや活動に参加してもらうことで街も活気付くから。
- ・駅の周辺に、マンションが増えたがスーパーや子供が遊べる場所が少ないのももう少し人が集まって、賑やかになって欲しいから。
- ・自家用車がなくても生活に必要な施設にアクセスできる高い利便性。
- ・若い世代に多く居住してもらいたいから。
- ・アクセスの良い水戸駅前に保育所や学童保育所が併設された賃貸集合住宅を建設して既婚カップルや婚約カップルに限定せず色々な形の若い世代のカップル、若い世代のファミリーに活力ある水戸市を創造してもらいたいと考えます。居住する条件としてはある程度の年齢制限を設けて子育てや妊活にお金が掛かる若い世代に安い賃料で生活出来ればと考えます。
- ・現在私自身も子育て世帯であり、休日など決まった場所へのお出かけになってしまうので新たに子供と共に出かけやすい場所や体を動かせる場所、集まりやすい場所などがあると助かります。
- ・高齢化社会において、子育ての充実を図るのは市民全員のためになるから。経済的に余裕がないと、市民生活が充実できないから。



理想のまちの姿（要旨）

【3】水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち

- ・私が理想とするまちでは、天候や平日・休日を問わず家族が水戸駅周辺で長い時間過ごしていることから、水戸駅周辺に愛着を持った子どもが大人になった際に、まちなかへの居住を選択することでコンパクトシティが持続的に形成されている。更に、コンパクトシティにより水戸駅前が活性化され、より子連れで過ごしやすい環境となる正の循環を生み出している。
- ・具体的な環境として、小さな子どもが全身を動かして長時間飽きずに遊べる、広々とした室内遊戯施設が水戸駅前にある。そこでは、小さな子どもが遊ぶことができる遊具が提供され、託児サービスも備えられている。それにより、親が小さい子どもを連れて行けない場所（映画館・美術館・芸術館、カルチャーセンター、静かなレストラン等）へ行くことができ、気分転換ができるよう図られている。
- ・室内遊戯施設付近の商業施設にはフードコートや子供用品店が並び、子供を遊ばせる前後で気軽に利用できるようになっている。
- ・上記の施設によって、子育て世帯の生活が水戸駅周辺で完結でき、親子ともに水戸駅前の歴史・文化施設、商業施設のサービスを豊かに享受できるようになる。これにより、子育て世帯のまちなかへの移住・定住を強く押し進めるものとなる。

○【3】に共感した理由

- ・子どもたちが室内遊戯施設で、天候や平日・休日問わず元気に遊ぶ姿が目に見え、豊かな気持ちになり共感できました。
たくさんの家族がゆったり食事ができる大規模なフードコートが水戸駅近くにあることも理想の姿です。
- ・そうおもったから。
- ・水戸駅周辺は、マンションが増えていますが、生活に必要な施設が少なく、活気が乏しい気がします。日常生活に必要な買い物、飲食、娯楽施設の充実が必要だと思います。活性化に賛同いたします。
宮下銀座などは、昭和レトロ感があって好きですが、家族で、モーニングやランチができれば、駅近の方が、集まるし、観光客も増えると思います。台湾の美食街のようなイメージです。
そして、マイムには、eスポーツを中心とした施設を作るとか。
今ある街並みや、施設を再利用して、住んでいる人ばかりでなく、郊外の人も出かけたくなる中心市街地になるのではないのでしょうか。
- ・現状水戸駅周辺の商業施設は平日・休日夜間は非常に閑散としており、「にぎわい」とは非常にかけ離れたものとなっている。車社会であるため仕方ないことは重々承知しているものの、県外・海外からの観光客の多くが東京方面からJRで水戸駅に降り立つことを考えると、なんとも寂しい。
生活にしても、水戸駅ビルでは生活に充足する商品を購入することができないため、車がなければネット通販に依存しなければならない現状がある。ロードサイドからレールサイドへ、市は人の流れを変える努力が必要。
南口は夜の雰囲気は暗く、広場喫煙室を中心として不良若年者と毎晩の暴走族がたむろするなど治安が悪い。街灯をさらに設置する、喫煙スペースを撤去する、1階ではなく2階デッキ部分から直接アクセスできるコンビニや清潔な公衆トイレがあるだけで雰囲気は変わる。

- 水戸駅を中心とした、平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち について
インフラの老朽化等による維持コストを考えれば、例えば 40 年先を考えたとして、内原・常澄・
県庁周辺ではなく、水戸駅ないし赤塚駅周辺に人口を集約してコンパクトシティを実現する必要が
あると思う。
商圈の維持、公共交通の維持の観点からも、水戸駅を核とし、その周辺で生活ができる環境が望ま
しいのではないかと。
- 若年層に中心市街地への愛着を持たせるのは良いと思う。
- 水戸駅周辺の閑散とした感じが、私のような外から来たものにとっては、とても寂しい感じがする
から。水戸市の魅力のなさを象徴してる感じです。水戸駅周辺に住んでいますが、買い物等は郊外
に車で行く事が殆どで。
駅周辺に色々な施設や遊び場等があれば、車も使わずに歩いたりする事も出来て、健康的な面でも
良いなと思い共感出来ました。



理想のまちの姿（要旨）

【4】「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち

- ・ライフスタイルのあり方のみならず、性志向／性自認の種類、国籍の種類、障害の有無等によって享受できる生活の利便性に偏りが出ないことが理想の姿である。
- ・水戸市の移住・定住人口の将来的な増加を目指すためには、次世代の再生産労働を担うと期待される若年層、特に女性の生活環境の向上を目指す必要がある。
- ・結婚や子育てといった特定のライフプランの選択を陰に陽に強制するような地域の雰囲気は、かえって若年（特に女性）の人口流出の大きな原因となり得ることを踏まえ、民間企業等における女性の雇用環境の改善を促す取組や、結婚・出産をする／しないを含めた個人のライフプランの選択の自由を尊重することの重要性を、教育等を通じて啓蒙していくことが、水戸市への移住・定住の促進に繋がっていくと考えられる。
- ・ジェンダーの多様化により、高校での女子スラックス導入等、制服選択の幅が広がっている。
- ・水戸市立小中学校において、実際に制服を着用する子どもたちに意見を聞き、それを踏まえ実際の学校現場に反映させることが重要である。

○【4】に共感した理由

- ・今までは高校を出ると東京を中心に県外に出ることが多く、そのまま戻らなくなりがちでした。とくに女性の場合は仕事でキャリアアップを目指す場面が少なく、男性のために控えることを余儀なくされる風潮があり戻りにくい。
歴史、そして千波湖を中心に美しく整備された景観、すでに40年ぐらいある芸術館を中心に全国でも指折りの音楽やアートの拠点であることより、以前あった排他的な水戸、ではなく多様性が尊重され多くの人に開かれた町であつたらいいなと思います。
- ・多様性というところに共感しました。
- ・住めば地元。
- ・多様性は将来必ず必要なものだと考える。
他人と自分は違う尊い存在だという認識を肯定的に受け止める土壌を作りたい。
- ・全く同じ顔の人がいないように、髪の色・性別・年齢・出身地・思考・等は人の数だけあって、多様性は身の回りに当たり前にある。その当たり前を、当たり前を受け入れることは大人には難しい。ただ、みんな違ってみんないいという多様性をあたりまえにすることという考えをしなくても、そんなの当たり前でしょと言える子供たちになってほしいとおもうから。提言により大人が考え方を改める必要があると思う。髪の色や肌の色。日本においてはみんな一緒がおかしいくらい重要視されている。世界には沢山の色を持ちつつ、同じ人間がいるのに。多様性を当たり前できない、認められないことから起こっている争いもある。多様性を尊重できることは未来を生きる子供たちに必要なことだとおもう。



理想のまちの姿（要旨）

【5】「世代やバックグラウンドの関係なく、多様な人々が安心して交流できるまち」

- どのような人も地域とゆるやかなつながりを持つことができ、安心して過ごすことのできるまちが「ここに住み続けたい」と思えるまちであり、理想の姿である。
- 子ども、高齢者、外国人、障害者、他地域からの移住者など、様々な市民が属性を問わず利用できる居場所を提供し、多様な交流が生まれる場となれば、地域への愛着が大きくなる。
- 属性の垣根を越えた交流によって、多様な視点や情報が行き交い、差別や偏見をなくし、孤立を防ぎ、困ったときに助け合える、豊かで安全な地域づくりができる。
- 「まちの縁側」は「特に理由がなく滞在することができ、その場にいる人々と交流できる」地域の拠点である。

参考

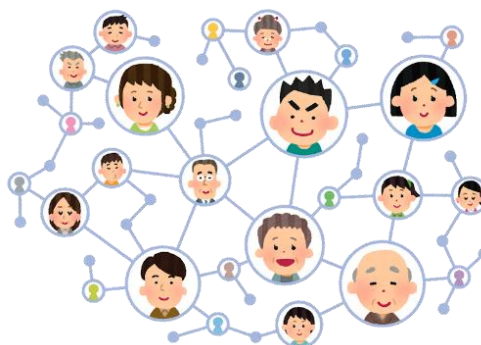
- ボランティアネットながの「まちの縁側」
<http://www.vnetnagano.or.jp/engawa/engawateian.htm>
- 港区 芝の家
<https://www.city.minato.tokyo.jp/shibachikusei/shibanoie.html>
- 川崎区地域の縁側づくり要綱（川崎市）
<https://www.city.kawasaki.jp/templates/outline/kawasaki/0000086940.html>



川崎市ホームページから引用

○【5】に共感した理由

- 県外からの移住なので。
- かたよりのないまちでありたいです。
ためらわずに必要な時に利用できる環境であると嬉しいです。
- 現在の居住地で古くからのしがらみやバックグラウンドによる煩わしさなどを感じることもあるため。



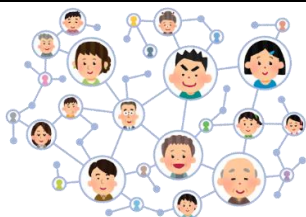
理想のまちの姿（要旨）

【6】必要な人に必要な行政サービスが届くまち

- ・私の理想のまちは、子育て世帯・高齢者・障害のある方・外国につながる人・LGBTQなどに関わらず、誰もが明日の暮らしに希望を持てるまちである。程度に差はあるものの、人は経済・社会的に他者の支援や交流を必要とするが、このまちでは皆に行政サービスが行き届くため、皆の生活の悩みが解消されている。このことから、誰もが安心して生活することができるため、自分の望む暮らしの実現を目指せる環境が整っている。
- ・R4.4に新設される子ども部をただ各部の子どもにかかわる部署を集約した場に留めず、プッシュ型支援を目玉政策として取り入れることで、水戸市が真に子どものために変わっていこうとしていることを示すことができる。そして、プッシュ型支援の仕組みを水戸市が実施していることを広く知ってもらうことで、今の世代、そして未来の世代に充実した支援を期待して水戸を選んでもらい、「移住・定住」を促すことにつながる。
- ・他市町村との差別化を図り、「水戸市を選んでもらう」ためには、福祉制度の多くが採用している「申請主義」型ではなく、プッシュ型の支援を行うことが必要である。

○【6】に共感した理由

- ・誰もが安心して生活することができる。プッシュ型支援の仕組みを水戸市が実施していることを広くしていただき、「移住・安住」につなげる。「人口減少」他県,他市町村から移住していただける環境作り。
- ・誰もが安心して生活することができるため、自分の望む暮らしの実現を目指せる環境が整っている。
- ・そうあって欲しいと思ったからです。
- ・子育ても介護も行政の力が必須。
- ・子供を持つ若い家族や子供を待ち望む全てのカップルに必要な行政サービスが丁寧に行き届く水戸市になって貰いたい。具体的には水戸市独自の待機児童対策、学童保育対策、不妊症サポートや養子縁組サポート等です。
- ・今の時代働いていても（むしろ働いてるほうが税金などで）生活きびしいです。生活保護者は医療もヤチンも無料で手当ももらえます。働いてる人でもきびしくて病院いけないこともあります（我が家も我慢することたまにあります）。子どもがいない夫婦も置き去り感があります。子どもができない夫婦もいるのに子どもがいないと手当はなし、子供いないのとのさべつがあることも悲しいです。そういうことがない市になること願ってます。
- ・難病を患い(現在40代)自家用車の運転が出来なかったり、生活で様々な不便や行政サポートの足りなさを感じ、生き辛さを感じます。子供や高齢者には様々なサポート事業がありますが、40代での生活苦(親兄弟との縁もなく、持病のために親しい友人や近所の人もおらず、頼れるのは夫だけ)はなかなか頼るところがありません。
- ・【6. 必要な人に必要な行政サービスが届くまち】と【8. 強い経済力のあるまち】の2つに共感した理由は、水戸市を発展させるために必要な要素と考えているため。
自治体主導で市民を巻き込み、皆の水戸市をつくり上げることが必要だと思っている。そのため、デジタル技術を活用して多くの住民が水戸市政策に関与し、少数意見も吸い上げることが出来る仕組みを構築して市民のニーズを拾い、地場企業が水戸創生に貢献できる仕組みを構築し財政を少しでも豊かにすることで水戸市からのきめ細かいサービスを市民は受けることが可能になると思う。



理想のまちの姿（要旨）

【7】「安心して子供を産み、育てられる環境」があるまち

- ・私の理想とするまちは、出産や子育ての負担を解消する支援策が充実していることから、市民が子どもをもうけるにあたり、仕事と家事育児を両立させること、高齢での出産を選択できること、他者との交流を保てることなど、充実したライフプランを自由に選択できる。そのため、子育てへの安心や余裕が生まれ、親としても個人としても幸せに過ごせるまちである。
- ・移住者の獲得は自治体間の競争ともなり得るため、出生数を増やす取り組みは他地域との関係性を考える上でも大変望ましい人口維持の方法である。
- ・女性の社会進出が進み、それに伴い発生している、仕事と家事・育児の両立のための身体的・心理的負担、晩婚化・高齢出産の負担、キャリア中断のリスクを減らす取組が必要である。
- ・大分市家事援助サービス

<http://www.naana-oita.jp/coupon/index>

○【7】に共感した理由

- ・例にある「大分市家事援助サービス」の子育てクーポンは子育て世帯にはとても魅力的で喜ばれると思います。
家事サービスや子供預かりサービスを手軽に利用できると良いです。
- ・今は子供はいないが、今後数年のうちにいわゆる子育て世帯となるため。
明石市や他の自治体の例を見ていると、水戸市にもっとも足りていない要素と考えるため。
- ・安心して子供を産んで育てられるというのは総合的に経済も生活環境も良い証明である。
- ・出産子育てが安心してできる街というのは、経済にしても行政サービスにしても発展している街が多いように感じる。出産子育てが安心してできる街にするには、をテーマに、このテーマを達成するためにはどうしたらいいかを考えれば、多様な課題が見え、それを解決していくことにより、メインテーマの出産子育ても解決していき、より良い街作りにつながっていき、水戸の発展に繋がると思う。
- ・少子化が進んでいるので、子育てがしやすい市だとこれから子どもを産む人が増えると思う。
これから子どもをたくさん産んで、少子化対策をしてほしい。
- ・共感までとはいかないが、少子化の現状を考えると水戸市の人口減少には危機的に感じる。
「9. 首都方面に通勤・通学できる水戸市」や「10. 新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち」の項目にも該当しますが、ご承知の通りつくば市内は確実に人口が伸びており、その要因としては子供の教育そして就業場所確保される首都圏へのアクセスが充実していることである。
そのような都市設計をするのが急務であると感じられる。
また、水戸市の弱点とも思えるのは周産期医療や夜間の小児救急環境が未整備なところを痛感している。
また、保育所等も大事だが病児保育施設は皆無に等しく、魅力ある街とは思えないのが現状。
- ・水戸市に限らず、子育て世代の人口増加がそのまちの未来を大きく左右するため。



理想のまちの姿（要旨）

【8】強い経済力のあるまち

- ・私の理想とする水戸市は、観光産業を中心に強い経済力を持っており、充実した雇用があることから移住・定住が促進されている。
- ・若い世代の人々の特徴としては、自分が見たもの、訪れた場所、食べたものなどの写真をSNSで拡散し、多くの人にその話題性を広げることを楽しみのひとつとしているため、そこに着目することで観光客を増やすことが出来る。

○【8】に共感した理由

- ・移住促進のためには働く場所があることが必須だと思いますので、強い経済力のある街づくりが必要不可欠だと思います。
特に、若い女性の働く場所がないと、集まらないと思います。
ただ、温泉もないし、魅力度の認知も低く、おもてなしの気持ちも低く感じられるので、観光事業で、というのは厳しいと思います。
スマートな農業とか、新たな事業の育成が必要だと思います。
- ・水戸市に経済力が無いと、市が発展していかないから。
- ・水戸駅前周辺や水戸駅北口から大工町辺りの賑わい復活はしばしば議論されるがそれ以外の地域の空洞化が目立つため経済的な強さは地域を支える意味でも重要と感ずるため。
- ・マンションに住んでいますが、居住者の高齢化が悩みです。独居老人も多いです。
- ・【6. 必要な人に必要な行政サービスが届くまち】と【8. 強い経済力のあるまち】の2つに共感した理由は、水戸市を発展させるために必要な要素と考えているため。
経済力が無ければ、市としての機能は維持出来ず、市民はサービスを受けることも出来ず、税を納めたいと思う気持ちも薄れ、魅力のない土地となり、最終的に荒廃していくと思っている。水戸市の目標を水戸市民に広く強く周知し、水戸市は具体的かつ定量的な評価指標を設けて市民に成果を公開することが必要と思います。
- ・経済は大事。
- ・もともと住みやすい街なので、もっと魅力ある街にしあげればひとは絶対集まる。
観光と住環境のバランスを考えて程よく開発すればもっと豊かな街になる。



理想のまちの姿（要旨）

【9】首都方面に通勤・通学できる水戸市

- ・私が理想するまちは、交通が発展しており、特急電車を利用して水戸から都心へ通勤・通学できること、また県南地域へ通勤・通学できることである。これらにより都心の人を水戸に呼び込み、水戸市の人材を水戸市に留まらせ、移住や定住の促進に繋がる。
- ・水戸市では、77%の子どもが県外に一時的にでも移住しているため、水戸市にとどまって学び・働き続けられる環境を用意することは、定住促進に有効と考える。
- ・今日のコロナ禍において多くの企業・大学でテレワーク・遠隔授業が採用されていることは、水戸市が前進していくまたとない機会なのである。
- ・水戸市は、都内や柏松戸地域よりも住居費が安く、マイホームを購入しやすい。また、水戸市の住居費は、守谷市やつくば市ほど値上がりしていない。
- ・水戸市からは座って通勤できる魅力があり、満員電車ではない快適性がある。
- ・首都方面に通勤・通学する人を支援することは、水戸市への移住によって優秀な人材を離職せずに繋ぎ止めたい雇用主への利益にもなる。
- ・労働者が都心から水戸市へ移住する際、東京の会社に勤務し続ける場合には交通費の増加や出社できない際の会社への損失など、会社へ負担をかけることが想定されるため、その対策を講じることで移住の動機が増える。

○他市の事例

- ・石岡市は定期券用ウィークリー料金券の購入費から、勤務先等から支払われる特急券に対する手当を除いた金額の半額まで助成している。なお、上限額は月額 16,000 円、年額 192,000 円である。
- ・越後湯沢市は新幹線通勤定期券購入費用から通勤手当等を控除した額の半額まで助成している。なお、上限額は月 5 万までであり、新潟～東京の新幹線通勤は 10 万以上する。

○【9】に共感した理由

- ・他市の事例同様に、水戸でもある程度の補助を行えば、都内に通勤する人が増えると思う。
- ・首都圏に住んでいる親、親族、友人に「水戸は遠い」「行くのが大変」と言われているため。子どもが進学で首都圏にいるが通学できないため一人暮らしをしており多額の費用がかかっているため。
- ・首都圏へのアクセスが悪すぎる。
商圏が水戸しかなく。
県南部と比べて、千葉埼玉東京への交通手段が悪い。
ますます過疎化がすすむと思います。



理想のまちの姿（要旨）

【10】新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち

- ・私の理想とするまちは、新幹線によって都心に1時間以内でアクセスできるため、水戸市から東京への通勤・通学の時間的負担が非常に少ないまちである。このことから、都心から自然が豊かな郊外への移住を希望する人達が、就職や就学をきっかけに多く移住して来ている。
- ・理想とする県央地域においては、関東県外からもアクセスが良いため関東県外から多くの観光客が集まっており、観光産業を中心に多くの産業が発展している。
- ・「水戸に住む」という選択肢を増やすためには、都心にアクセスしやすい環境づくりが必要不可欠である。そのためには、「都心まで1時間以内」というこの1時間という時間がキーとなっている。

○【10】に共感した理由

- ・新幹線がとまる場所は栄える傾向があります。（もと新幹線がとまる市に4か所住んでましたがやはり街の大きさ関係なく観光客は増えるし都心への通勤も楽になります）
水戸から都心や仙台に行く人はとても多く特急があるとはいえ、仙台にはそれでもかなりの時間かかります。
つくば Express がこちらにくるより仙台から水戸から上野や東京への新幹線が必要だと感じます。
- ・新幹線があれば、東京などはやく行けるから。新幹線がないと不便と都内の人も言っていました。
- ・交通機関は大事。
- ・新幹線（東京駅）や飛行機（羽田）に乗るのも水戸からでは一苦勞。
もっと気軽に首都圏に行き来したい。
- ・都心まで60分以内の環境整備が急務と考えられます。
- ・ミニ新幹線みたいなのがあったら良いなと思います。
- ・水戸からだ都心にまだアクセスがよくないのでつくばエクスプレスがこちらまで伸びたりなどもっと交通の便が良くなれば都心からも人が集まったりして活気つくと思います。
- ・宇都宮のように新幹線が通っていると、首都圏のみならず、北に行くのも便利で住んでいる人にとって利点は
また、外から人を呼び込むのにもメリットが大きいと思います。
- ・首都圏へのアクセスが悪すぎる。
商圏が水戸しかなく
県南部と比べて、千葉埼玉東京への交通手段が悪い。
ますます過疎化がすすむと思います。
特急、新幹線 高速バスではなく、普通電車(快速)で首都圏へのアクセスがほしい。
JRに頼りきりではなく新路線建設
グループの関東鉄道があるので私鉄(京成)などに延伸検討とか。
- ・遠出をするときや旅行の時、1度東京や上野に出ないと新幹線に乗れないのは不便です。
- ・水戸は歴史的な文化があり、歴史館などもあり画期的だが、弘道館など親しみやすく駐車場などを整備、お知らせいただきたいと思います。北辰一刀流も、本当は体験したいし、立派な市民会館もできたようなので、市民が気軽に利用できるよう芸術文化やライブなどを取り入れて、もしできれば新幹線などが入るとより水戸に来る方が多くなるのかなと思います。



理想のまちの姿（要旨）

【11】移住者同士の交流があるまち

- ・私の理想とするまちは、移住者が集まるコミュニティがあることから、水戸市で新たに生活を始める移住者の方でも他者との交流や生活の役に立つ情報に困らず、移住前の生活と同等以上のクオリティを保てるため、水戸市の暮らしに対し明るいイメージを持てるまちである。
- ・水戸の地域コミュニティに参加できていない不安感や水戸から遠隔地のオフィスに通う場合の企業側の理解の必要性への対応が重要である。
- ・コロナ禍およびアフターコロナにおける新しい働き方ニーズの取り込みを狙う。

○【11】に共感した理由

- ・「9. 首都方面に通勤・通学できる水戸市」「10. 新幹線があり交通の便が良く、都心にアクセスしやすいまち」にも関連することではあるが、現状、水戸市は車社会であり、人が自然と集まる場所がない。週末の商業施設は家族連れでにぎわっているが、独身の移住者には居場所がなく、疎外感を味わうだけなので自宅から外出しないか、独身でも居場所のある都内まで出かけることが多い。陰湿、閉鎖的と言われていた県民性を打破するのも、移住者や観光客といった「よそもの」の影響が大きいと思うので、中心地である水戸駅周辺によそものが気軽に集まりやすい場所（図書館、カフェ、酒場、等）がさらに充実するとよい。また、ハード面のみならずソフト面でも、市主催で移住者が自然と参加したくなるイベントがあると、なおよい。



理想のまちの姿（要旨）

【12】「芸術文化活動が盛んで、文化的な多様さが保証されている環境」があるまち

- ・私の理想とするまちは、芸術文化が強い関心を持たれていて、皆が生涯にわたり絵画・彫刻・文学（小説・詩・戯曲・批評等）・演劇・音楽・映像メディア等の質の高い芸術作品や文化人の業績にいつでもアクセスすることができ、文化的な創造を体験する活動に気軽に参加することが可能なまちである。ここにはもちろん、様々な学問の領域に触れ、学習する機会が確保されていることも含まれる。その結果、文化的に多様なネットワークが水戸市を越えて構築されているため、人を惹きつける芸術文化的な創造活動が活発に行われている。
- ・行政は、図書館などの各種文化施設を整備し、そこに保存されている作品・蔵書を含んだ種々の資料類を適切な方法で保存し、次世代に確実に継承していく義務を市民に負っている。
- ・国の報告書から、水戸市が各種コレクションの資料についてプレゼンテーションすることは、水戸は文化的に「何もない」地域であるというネガティブな印象を払拭し、移住を促進させるために重要であると考えられる。

○深作欣二コレクションの研究例等

- ・笠原和夫脚本で制作予定であった「実録・共産党」の映像作品化の構想を推測させる書き込みを含んだ資料の研究
- ・「仁義なき戦い」シリーズに戦争・軍隊批判のテーマが存在することを実証し得る資料の研究

○映画監督の資料を活用した、他市町村の文化振興例

- ・静岡県浜松市の木下恵介記念館
<https://keisukemuseum.org/>
- ・愛媛県松山市の伊丹十三記念館
<https://itami-kinenkan.jp/>

○【12】に共感した理由

- ・水戸は自然に溢れながら偕楽園、千波湖、芸術館と文化的にも昔から魅力的な街である。
- ・水戸芸術館、水戸市民会館、ヒロサワシティ会館と3つの大音楽ホールを持つ市町村は全国的にみて稀であり強みとなるため。

